

弾道ミサイル対応ガイドライン

北海道上川高等学校

令和6年（2024年）6月

内容

- 1 弾道ミサイル発射に係る対応について
- 2 様々な場面における避難行動などの留意点
- 3 Jアラートによる情報伝達のメッセージ
- 4 緊急情報ネットワークシステム（エムネット）
による情報伝達のメッセージ

1 弾道ミサイル発射に係る対応について

弾道ミサイルが発射され、日本に飛来する可能性がある場合は、Jアラート等により情報伝達されます。Jアラートにより国から緊急情報が発信されると、これを受信した市町村では、防災行政無線の警報が屋外スピーカー等を通じて流れるなど、様々な手段により住民へ情報が伝達されます。また、携帯電話等にもエリアメール・緊急速報 メールが配信されます。

【1】Jアラートを通じて緊急情報が発信された際の対応

弾道ミサイルが着弾した際は、爆風や破片等による危険が想定されるため、それらから身を守る行動をとることが必要です。正しい知識を身に付け、適切な避難行動をとることにより、被害を最小限にすることが可能です。

Jアラートによる情報伝達と学校における基本的な避難行動の流れ

行動の基本「姿勢を低くし、頭部を守る」

ミサイル発射。
ミサイル発射。
●●からミサイルが発射された模様です。建物の中又は地下に避難してください。

直ちに避難。
直ちに避難。
直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが落下する可能性があります。
直ちに避難してください。

弾道ミサイル発射情報・避難の呼び掛け

◆【屋外にいる場合】

- 近くの建物の中や地下に避難し、床に伏せて頭部を守る（可能であれば頑丈な建物が望ましいが、近くにない場合はそれ以外の建物に避難）
- 近くに避難できる建物がない場合は物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る

【屋内にいる場合】

- できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋に移動する
- 床に伏せて頭部を守る



姿勢の一例

日本に落下する可能性がある

日本の上空を通過

日本の領海外の海域に落下

直ちに避難の呼び掛け

直ちに◆と同様の行動をとる

落下場所等についての情報

追加情報があるまで引き続き屋内避難を継続する※²

追加情報※³

ミサイル通過情報

落下場所等の情報

屋内避難は解除

- 不審なものを発見した場合には、決して近寄らず、直ちに警察、消防や海上保安庁に連絡する

2 様々な場面における避難行動などの留意点

学校にいる場合

【校舎内の対応例】

教室内で授業中の場合、地下室や窓のない部屋にすぐに移動することが難しい場合は、窓から離れて、床に伏せて頭部を守る。机の下に入って頭部を守る。

【校舎外の対応例】

校外で授業中の場合、建物の中や地下に移動することが難しい場合は、遮へい物のそばに移動して身を隠すか、その場で地面に伏せて頭部を守る。

校外活動中の場合

- ・ 屋内にいる場合でも、すぐに避難できるならば直ちに頑丈な建物や地下に避難する。
- ・ 計画の段階で様々なリスク発生を想定しておき、活動場所での情報伝達方法やリスク事案が発生した場合の避難方法について、事前に確認しておく。
- ・ 野外活動の際は、引率者がスマートフォン等の情報ツールを携行すること、情報収集の手段を確保すること、事案発生時の避難を念頭においた下見を行う。
- ・ 生徒に対して、事前の検討を踏まえて、教職員がそばにいない際の避難行動や連絡手段について、事前に指導しておく。

登下校中の場合

地震発生時と同様に、入手した情報に基づき生徒自らの判断で冷静に行動できるように、事前および定期的に指導しておく。指導のポイントは以下の通り。

- ・ ミサイル発射に関する緊急速報は、屋外スピーカーからの警報、テレビやラジオ、携帯電話へのメール配信などがあるので、聞こえてくる音を注意深く聞くこと。
- ・ 緊急情報を知った人が何らかの行動をとることから、周囲の変化や人の行動も情報の一つであると考えること。
- ・ 列車やバス等の交通機関においては、車内に流れる情報や乗務員の指示を注意深く聞き、その指示に従うこと。

児童生徒が自宅等にいる場合

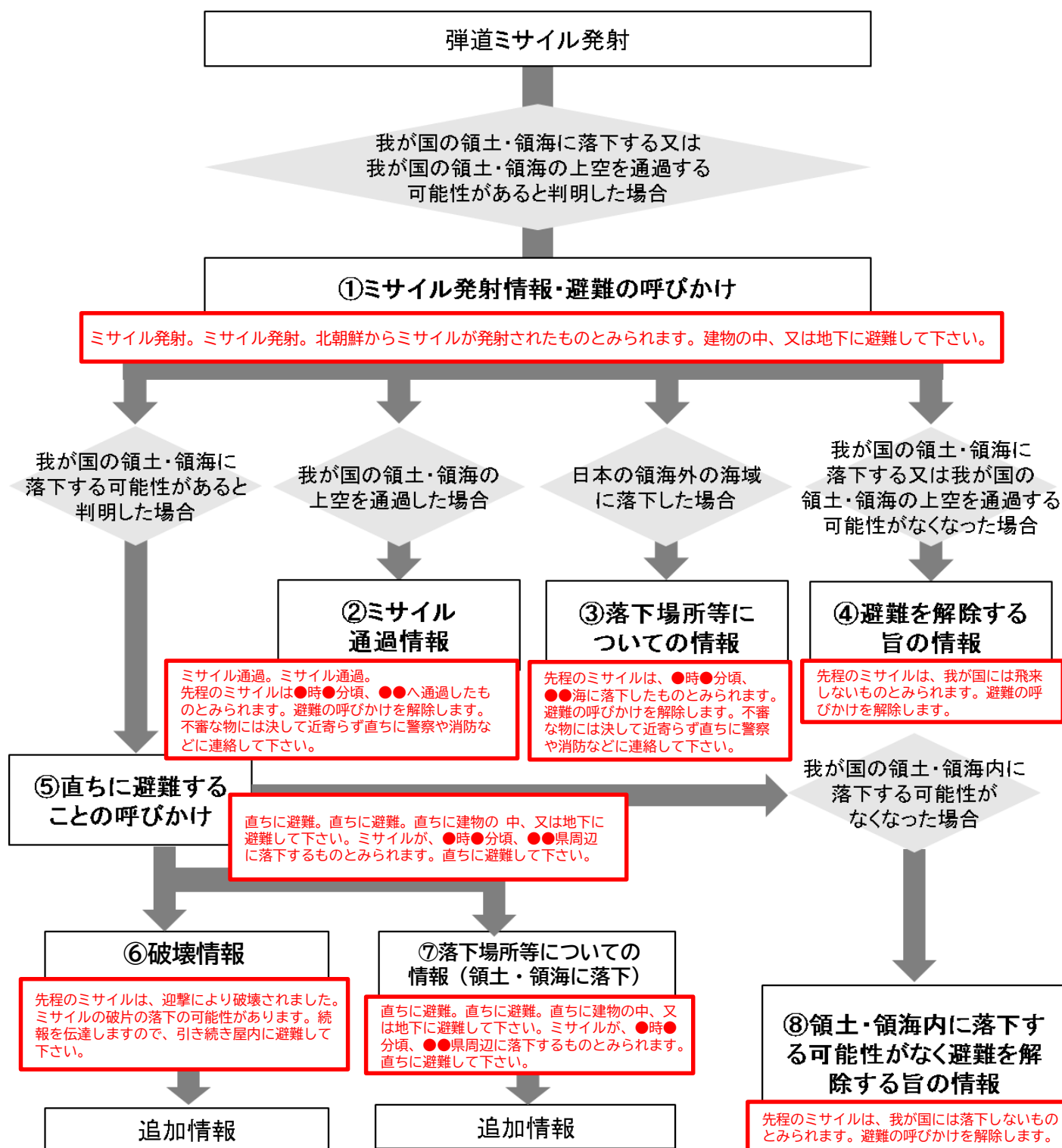
- ・ 登校前や下校後に自宅にいる場合は、安全確認が取れるまで待機し、身の安全を確保できるように、あらかじめ指導しておくこと。
- ・ 早朝等に弾道ミサイル発車情報が伝達された場合、登校時間の変更や臨時休業など学校からの情報伝達の方法や安否確認の方法について、周知しておくこと。

3 全国瞬時警報システム（Ｊアラート）による情報伝達のメッセージについて

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合におけるＪアラートによる情報伝達について、今般、伝達する文言を次のとおりとしました。

なお、下記のメッセージは、状況に応じ、変更する可能性があります。

<ミサイル発射時のＪアラートによる情報伝達の流れ>



4 緊急情報ネットワークシステム（エムネット）による 情報伝達のメッセージについて

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合におけるＪアラートによる情報伝達について、エムネットにより情報伝達する文言についても次のとおりとしました。

なお、下記のメッセージは、状況に応じ、変更する可能性があります。

<ミサイル発射時のエムネットによる情報伝達の流れ>

